

平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成28年2月15日

上場会社名 M-フルッタフルッタ 上場取引所 東
 コード番号 2586 URL https://www.frutafruta.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員CEO (氏名) 長澤 誠
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員CFO (氏名) 杜山 悦郎 TEL 03-6272-3190
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月15日
 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の業績（平成27年4月1日～平成27年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	2,067	△21.9	△277	-	△271	-	△308	-
27年3月期第3四半期	2,646	-	58	-	237	-	148	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	△305.57	-
27年3月期第3四半期	162.74	152.63

- (注) 1. 当社は平成26年3月期につきましては、第3四半期財務諸表を作成していないため、平成27年3月期の対前年同四半期増減率の記載はしていません。
 2. 当社は、平成26年12月17日に東京証券取引所マザーズ市場に上場したため、平成27年3月期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、新規上場日から平成27年3月期第3四半期会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
 3. 第14期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	3,253	881	27.1	873.06
27年3月期	2,490	1,195	48.0	1,184.00

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 881百万円 27年3月期 1,195百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
28年3月期	-	0.00	-	-	-
28年3月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成28年3月期の業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,650	△20.8	△390	-	△400	-	△450	-	△445.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

業績予想の修正につきましては、本日（平成28年2月15日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期3Q	1,009,400株	27年3月期	1,009,400株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	－株	27年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期3Q	1,009,400株	27年3月期3Q	915,218株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策を背景に、雇用・所得環境の改善が続くなか、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、海外経済においてはアメリカの金融政策の正常化による影響や、中国をはじめとしたアジア新興国等の景気不振リスク等により、引き続き先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、輸入原材料価格が高止まりするなか、相次ぐ商品値上げの動きの影響等により、消費者の節約志向が一層強まる等、厳しい状況となりました。

このような環境の下、当社は、『自然と共に生きる』という企業理念のもと、『アサイーカンパニーからスーパーフードカンパニーへ』を掲げ、商品の企画開発に積極的に取り組み、話題のスーパーフードの1つである「チアシード」やスーパーフルーツの「ピタヤ」、アマゾンフルーツを代表する「クプアス」、また、くるみ・カシュー・アーモンドの3種のナッツで作った「デイリーフリーミルクシリーズ」(植物性ミルク)、「デイリーフリー・クッキーサンドアイスシリーズ」(植物性ミルクアイス)、スーパーフードをチョコでコーティングした「スーパーフードスナックシリーズ」等、新製品を次々と発売し、新製品発表会を開催したことで、各メディアや雑誌でも取上げられ注目頂いております。当社としては、このように他社に先駆けて新製品を市場投入することで、成長が期待されるスーパーフード市場において確固たる位置づけを確保し、業績の回復に努めてまいりました。また、アグロフォレストリー・マーケティングの強化にも努め、新商材のピタヤをはじめとしたスーパーフルーツの提案等、国内での販路拡大とアサイー及びアマゾンフルーツの認知度向上に取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間においては、昨今の為替円安による輸入原材料価格高騰の影響を抑えるべく、販売価格の見直しや利益改善を図った製品として「フルッタアサイーシリーズ」のリニューアルやアサイー以外の商材を使用した秋冬新製品を発売し、これら新製品の販売構成比率を上げることで売上と利益確保に努めてまいりました。しかしながら既存製品の売上が大幅に落ち込み、第3四半期累計期間に投入した新製品については、市場浸透には多少時間を要するものと想定していたものの、製品のアピールポイントや特徴を消費者に訴求するためのプロモーションが不十分であったこと等で、売上は当初想定を大きく下回ることとなりました。結果として、当第3四半期累計期間の売上高は2,067,842千円(前年同期比21.9%減)となりました。

利益面につきましては、高付加価値製品である秋冬新製品の販売を促進し、新製品の販売比率を上げることで利益率改善を図りましたが、売上が想定を大きく下回ったことで利益確保が厳しい状況となりました。また、比較的利益率の低いアグロフォレストリー産カカオ豆の販売は順調に推移したことで、全体の利益率を押し下げることにもなりました。結果として、売上総利益は565,329千円(前年同期比43.8%減)となりました。

販売費及び一般管理費においては、前期と比べ製品と原材料在庫が増加したことで倉庫料が増加したものの、主に販売促進費等の抑制や消耗品等の経費削減に努めたことで販売費及び一般管理費は減少いたしました。結果として、販売費及び一般管理費は減少したものの売上が想定以上に減少したことで、営業損失277,526千円(前年同期は営業利益58,971千円)、経常損失271,212千円(前年同期は経常利益237,153千円)、四半期純損失308,445千円(前年同期は四半期純利益148,940千円)となりました。

当社のおかれている状況は非常に厳しいものとなっておりますが、下期新製品は各メディアで取上げられ、取引先からの評価は高まってきております。また、製品の売上総利益率自体も改善傾向にあることから、引き続き高付加価値製品の企画開発に取り組むとともに、製品のコンセプトや特性に合った適切な売り場での製品配置や効果的なプロモーションの実施等により売上の拡大と売上総利益率の改善を図り、経費削減を推進してさらに業績の改善に努めてまいります。

当社は輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。事業部門別の業績は次のとおりであります。

ナショナル・ブランド事業部門(NB事業部門)に関しては、主力製品「フルッタアサイーシリーズ」のリニューアルやスーパーフードを使った新製品等18アイテムを投入し売上獲得を図りました。しかしながら、既存商品の売上が大幅に減少し、秋冬新製品については、大手CVSで採用される等、一部製品については初動売上は好調だったものの、想定した売上には届かず厳しい状況となりました。この結果、NB事業部門全体の売上高は1,150,100千円(前年同期比26.7%減)となりました。

アグロフォレストリー・マーケティング事業部門（AFM事業部門）に関しては、大手菓子メーカーへのアグロフォレストリー産カカオ豆の売上は大幅に増加いたしました。一方外食店向けや食品メーカーにおいては、アサイー原料採用が一巡したことで売上は減少いたしました。その結果、AFM事業部門全体の売上高は729,825千円（前年同期比10.7%減）となりました。

ダイレクト・マーケティング事業部門（DM事業部門）のうち、直営店舗に関しては、アマゾンフルーツのメニュー拡大や新製品の試飲会を実施する等取組みました。一方で、平成27年9月末に情報発信地としての役割及び採算性も鑑み、幕張新都心店を閉店しております。WEB通販に関しては、定期お届けコースのメニュー追加やフルッタファン限定の『秋冬新商品の試食会』を開催する等、販売促進に取り組んでまいりました。しかしながら、アサイー人気が落ち着いた影響もあり売上は低調に推移いたしました。結果として、DM事業部門全体の売上高は187,916千円（前年同期比27.7%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産に関する分析

（資産）

当第3四半期会計期間末における総資産の残高は、前事業年度末より762,955千円増加したことで、3,253,242千円となりました。流動資産の残高は、748,817千円増加して、2,991,688千円となりました。この主な要因は、商品及び製品が17,459千円減少した一方で、原材料及び貯蔵品が628,294千円増加、現金及び預金が117,992千円増加したこと等によるものであります。固定資産の残高は、14,138千円増加して、261,553千円となりました。この主な要因は、投資その他の資産が11,661千円減少した一方で、無形固定資産が28,412千円増加したこと等によるものであります。

（負債）

当第3四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末より1,076,817千円増加したことで、2,371,978千円となりました。流動負債の残高は、963,894千円増加して、2,082,448千円となりました。この主な要因は、買掛金が123,524千円減少した一方で、資金調達により短期借入金が1,065,400千円増加、1年内返済予定の長期借入金が138,080千円増加したこと等によるものであります。固定負債の残高は、112,922千円増加して、289,530千円となりました。この主な要因は、社債の償還により社債が25,000千円減少した一方で、資金調達により長期借入金が108,140千円増加したこと等によるものであります。

（純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末より313,861千円減少して、881,263千円となりました。この主な要因は、四半期純損失の計上に伴い利益剰余金が308,445千円減少したこと等によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、前回発表（平成27年11月15日「平成28年3月期 第2四半期決算短信」）の予想数値を変更しています。詳細につきましては、本日（平成28年2月15日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	506,641	624,633
売掛金	394,041	368,160
商品及び製品	366,899	349,439
原材料及び貯蔵品	913,758	1,542,052
その他	61,530	107,403
流動資産合計	2,242,871	2,991,688
固定資産		
有形固定資産	28,812	26,199
無形固定資産	7,216	35,629
投資その他の資産	211,386	199,724
固定資産合計	247,415	261,553
資産合計	2,490,286	3,253,242
負債の部		
流動負債		
買掛金	312,095	188,570
短期借入金	400,000	1,465,400
1年内償還予定の社債	30,000	25,000
1年内返済予定の長期借入金	144,720	282,800
未払法人税等	101,022	-
賞与引当金	13,148	4,069
その他	117,567	116,608
流動負債合計	1,118,553	2,082,448
固定負債		
社債	25,000	-
長期借入金	140,100	248,240
資産除去債務	11,507	10,174
その他	-	31,115
固定負債合計	176,607	289,530
負債合計	1,295,161	2,371,978
純資産の部		
株主資本		
資本金	363,340	363,340
資本剰余金	401,825	401,825
利益剰余金	422,844	114,399
株主資本合計	1,188,010	879,564
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	7,114	1,698
評価・換算差額等合計	7,114	1,698
純資産合計	1,195,125	881,263
負債純資産合計	2,490,286	3,253,242

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
売上高	2,646,936	2,067,842
売上原価	1,641,357	1,502,513
売上総利益	1,005,578	565,329
販売費及び一般管理費	946,606	842,855
営業利益又は営業損失(△)	58,971	△277,526
営業外収益		
受取利息	68	43
為替差益	42,592	19,508
デリバティブ評価益	148,613	-
その他	675	921
営業外収益合計	191,950	20,473
営業外費用		
支払利息	5,873	10,248
株式交付費	6,781	-
デリバティブ評価損	-	3,743
その他	1,112	168
営業外費用合計	13,768	14,159
経常利益又は経常損失(△)	237,153	△271,212
特別利益		
固定資産売却益	-	160
特別利益合計	-	160
特別損失		
店舗閉鎖損失	-	1,291
その他	-	10
特別損失合計	-	1,302
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	237,153	△272,354
法人税、住民税及び事業税	86,050	△471
法人税等調整額	2,162	36,562
法人税等合計	88,213	36,090
四半期純利益又は四半期純損失(△)	148,940	△308,445

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

当社は、輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

当社は、輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。